

飯塚 萌

私は今回のスタディツアーで初めて韓国を訪問しました。最近では韓国の文化が私たち若者を中心に流行する一方で、慰安婦などの政治的な問題が目につくため、一体どんなツアーになるのか楽しみでもあり、不安でもありました。

四日間という短い期間で、韓国のことをいろいろな側面から学ぶことができたと思います。特に印象に残ったのは、脱北者の方のお話と、三日目の韓国人学生との交流です。以前は脱北者というとテレビでたまに見る程度で、どんな方々なのかよく分かっていませんでした。しかし、実際に詳しくお話を聞いてみると、脱北をすることを家族にさえ伝えることが危険だったり、北朝鮮にいる家族に連絡するのも一苦労だということを知り、脱北の大変さ、そして私は今まで恵まれた場所で生きていたんだということを実感しました。北朝鮮での洗脳的な教育など、日本で教科書を読むだけでは学べないような貴重なことをお聞きすることができ、本当に良い体験となりました。北朝鮮での、国のリーダーに対する人々の考え方や、軍隊に関する話を聞き、洗脳教育とは恐ろしいものだと思います。そしてそんな北朝鮮はいつまで続くのだろうと疑問に思いました。

また、三日目の現地の高校生との交流会では、最初は仲良くできるか、コミュニケーションはしっかりとれるのか、何を話せば良いのか…など、いろいろな不安がありました。いざ行ってみると本当に仲良く話すことができました。日本語を勉強していたり、日本

の芸能人が好きだったりするなど、日本の文化に興味を持っていてくれる学生が多く、とても嬉しかったです。彼女たちと話してみると、受験の過酷さやクラブ活動、人間関係など、同じ年代の友達ができたことで、韓国についてより等身大に知ることができました。韓国では、日本について決して好意的とは言えない教育がされているのにも関わらず日本に対して興味を持ち、そして私たちと仲良くなってくれることに感激しました。この交流を通して、現在の日本と韓国の緊張関係とは関係なく、私たちはこんなにも仲良くなれるのだと嬉しく思い、そして、このような関係が日韓の関係の修復の糸口になれば良いなと思いました。私はこの関係をこれからも大切にしていきたいと思います。友達を作るのに国籍など関係ないのです。

今、日本では韓国の文化が流行し、また、韓国でも日本に興味を持っていてくれる人がいる。しかしその一方でこの二国の関係は良いとはいえません。それは、無かったことにはできない歴史があり、お互いにそれを引きずってしまっているからだと思います。確かにこれらの歴史は重要なものです。しかし、過去にとらわれず互いに認め合い、新しく一歩踏み出すことが必要なのではないでしょうか。お互いの国の文化が好きだとか、仲良くしたいというような素直な気持ちをもっと大事にすることが日韓の関係の向上につながると思います。そのために私は、これからの人生でたくさんのことを学び、視野を広げ、そして彼らと仲良くしていきたいです。

川端 ノエル

今回のツアーは、私にとって初めての韓国訪問でした。私は今まで「韓国」という国について興味を持ったり、深く考えたことがありませんでした。韓国は日

本より寒いことや、キムチや韓国のりの発祥地、慰安婦問題や韓国の元大統領の問題をニュースで見ているぐらいでした。そんな安易な考えを持ちながら、私は

参加者の感想

このスタディツアーに参加しました。

私が今回のスタディツアーに参加して印象に残ったことは、北朝鮮と韓国の関係性です。韓国に行く前は、北朝鮮がミサイルを発射したときの韓国の対処などをニュースで見て、私は韓国も北朝鮮もお互いに嫌っていると思っていました。しかし、2日目に非武装地帯に行き分かったことは、韓国は北朝鮮と統一したいと思っているということでした。その思いはその時の大統領の考えによって左右されていて、うまく進まないことも分かりました。この思いを知って、私の北朝鮮と韓国の関係性の理念が変わり、少し前の私のように関係が悪いと思っている人に伝えたいくなりました。また、日本の報道は関係のごく一部しか取り上げていないことも。この誤解を解いてもらうためには、まず日本の政府が日韓の関係だけではなく北朝鮮と韓国の関

係に興味を持たないと、何も変わらないと思いました。

他にも、西大門刑務所や慰安婦像に実際に行き、韓国人が日本人をどのように思っているかを肌で感じ、心が痛むこともありました。また、今写真を見るのも嫌になるほどトラウマになった経験もしました。しかし、これらは実際に韓国に行ったからこそ感じられたと思います。そして、私の人生に大きな衝撃を与えてくれました。だから、このツアーに誘ってくれた友達、一緒に行ったメンバー、韓国で私たちの世話をしてくださった方々、杉並ユネスコの方々、そして親に感謝します。今回のスタディツアーで学んだことを生かして、これからの日韓に携わることができると嬉しいです。また、機会があればもう一度韓国に行きたいと思わせてくれるツアーでした。

金野 歩南

私は初めてこの韓国スタディツアーに参加しました。

参加を決めた理由は、大きく分けて2つあります。1つ目は、韓国に行ったことがなく、純粹に行ってみたかったからです。2つ目は、日本の隣の国である韓国について知りたいと思ったからです。私は今まで、ニュースで見聞きするだけの情報しか韓国についての知識がありませんでした。最近では、さらに北朝鮮の問題や日韓関係の問題が頻繁に取り上げられていて、このスタディツアーは韓国について学ぶ絶好の機会だと思いました。

私がこのスタディツアーを通して感じたことは、たくさんあります。

1つ目に、街中に現代の建物と昔の建物が混在していて、すごいと思いました。普通の高層ビルの隣にもすごく古い建物があったりして、日本には無いような街並みでした。

次に、韓国と北朝鮮の関係が、私が今まで考えていたものとは違っていて、衝撃を受けました。私は今まで、韓国は北朝鮮のことを嫌っていて南北統一なんてしたくないのだと思っていました。しかし、実際には、韓国は北朝鮮と仲良くしたくて、南北統一を望んでいました。その理由に南北が分断された時に離れ離れになってしまった家族のことなどがありました。このような韓国と北朝鮮の関係を、私のように間違えて認識している人が日本には多くいると思います。よりたくさんの人に、私が韓国で学んだこのことを伝えていけたらいいと思います。

そして、韓国では、家族で政治などの話はしないと知って驚きました。日本でも、政治の話は家族であまりしませんが、それは日本人があまり政治に興味を持っていないことからだと思います。ですが韓国では、世代によって政治への考えが全く違うから、という理

由で政治の話はしないそうです。例えば、韓国の年配の方は反日感情が強く、日本人個人に対しても、憎しみを抱く人がいるようです。それに対して若者は、日本という国として見るといやだと思ふこともあるようですが、日本人個人として見ると、嫌悪感などは持たずに、むしろ友好的に私たちと接してくれました。こうしてみると、日本に対しての考え方も、世代によって違うことがわかります。

今回の韓国スタディツアーでは、主に「韓国と北朝鮮」というのを中心に学びました。初めて知ることや、

衝撃を受けることがとても多く、刺激的な3泊4日でした。先ほど書いたこと以外にも本当に様々な経験をすることができたので、この貴重な経験を通して学んだこと、感じたことを多くの人に発信することが、これからの私にできることだと思いました。

今後も韓国と北朝鮮の関係、そして韓国と日本の関係も変わり続けていきます。常に様々なニュースに関心を持って、韓国や北朝鮮についての情報を得続けることが大切なのだと感じました。

福山 蒔乃

私は、韓国スタディツアーで初めて韓国に行くまで、韓国のことをほとんど知りませんでした。韓国だけでなく、ほかの国のことについても同じです。日本のことすら十分に知っているとは言えないほどでした。

私は自分に本当に近いところ、楽しいと思うこと、好きな音楽グループ、友達のこと、進路のこと、そんな小さな世界で16年過ごしてきました。その他のことにはあまり関心がなく、知らないからと言って特に困ることもないだろうとずっと思っていました。けれど、今回の韓国ツアーや夏にイギリスに短期留学をして、それはとてももったいないことだと知りました。そして今回の韓国ツアーでは、世界に行くことは簡単なことで私が思っていたよりずっと壁はないこと、国が違って日本の友達と同じように仲良くなれること、そして日本が恵まれていることなどを知ることができました。

私は、外国に憧れることはあっても、家族がいて、友達がいる日本をわざわざ離れて、外国で暮らそうとは思ったことはありませんでした。日本の大学に進学して、就職して、日本で生きていく未来しか考えたことはありませんでした。でも、世界には同年代でも自

国にある進路だけではなく、外国の進路も探して、目指している人がいることを知りました。もちろん日本にもそういう人はたくさんいると思います。ただ、今回向こうの韓国人学生が自分の夢のために、日本の大学を目指している、アメリカの大学を目指していると聞いて、自分はとても狭い視野でしか進路や将来のことを考えていなかったことに気がきました。また、外国には自国の言語と英語に加え、さらに第二外国語を学んでいる人が存在していることは、私にとってとても刺激になりました。以前、学校の先生に日本語と英語しか話せない日本人と、日本語と英語に加えさらにもう一つ言語を使える外国人がいたら、企業が雇うのはどっちだと思うと聞かれた言葉が急に現実味を帯び、もっと勉強を努力しようと思いました。そして、なによりも自分の将来をもっと広い視野で考えてみようと思いました。

今回、韓国ではとても楽しい経験をたくさんしましたが、とてもショックなこともありました。西大門刑務所で実際に拷問や死刑などが行われていたということ、そして、現在でも韓国の小学生は反日教育を受けており、その一環としてこの刑務所を訪れているとい

うことです。刑務所には当時の拷問の様子がわかるものがたくさんありました。私は、ユダヤ人が迫害され収容所でひどい仕打ちを受けていたことは知識としては知っていましたが、今回知識として学ぶのではなく、実際に自分が刑務所を訪れることで、初めて拷問が本当にむごいものであることがわかりました。そして、高校生の私も、刑務所でとても怖い思いをしたのに、韓国では小学生でもそんな体験をしているということがとてもショックでした。小さい子供を連れた家族がそこを訪れているのを見たときは本当に驚きました。日本人も戦争中、虐待や拷問はされていたと日本に戻ってから聞きました。しかし、日本で私はそんな教育は受けませんでした。戦争を体験した人から戦争はもう二度と起こしてはいけないということを聞くことはあっても、残酷な話や誰かを憎んでいるなどの話は聞いたことがありません。拷問や暴力、死刑、憎しみは私が今まで生きてきた中ではとても疎遠なものでした。私は自分がいかに安全で守られた世界で生きてきたかがよくわかりました。祖父母や先生、国にとっても感謝したいと思いました。しかし、現実をしっかりと見なくては、本当に戦争がよくないことかどうかを実感す

鈴木 綾菜

今回私は、初めて韓国スタディツアーに参加しました。その中で日本にいただけでは分からない日韓問題のこと、韓国の学生と交流できたことや、韓国と北朝鮮の国境に行ったこと、脱北者の方のお話を聞いたことなど、ツアーで経験したことの全てがとても実りのあるものであり、本当に勉強になることばかりでした。

まず印象に残ったのは韓国と北朝鮮の関係についてです。ツアーの中で私たちは DMZ (第三トンネル) を訪れました。これは北朝鮮が韓国まで掘ろうとしたトンネルです。韓国と北朝鮮は世界で唯一の分断国家

ることも難しいのだということもわかりました。

韓国人学生から、そんな教育を受けても、日本に進学したい、日本が好きだと言ってくれる韓国人がいるのは日本の文化のおかげだと聞きました。私の周りでも韓国の文化はとても流行っています。文化というのは国境を越えて伝わっていくもので、とても影響力があるものなのだと実感しました。

韓国では、温かく歓迎してくれた学生、英語も通じずコミュニケーションを取れる言語がなくても、翻訳機を使って一生懸命お寺について教えてくれたおじさん、言語が通じないので紙に「ごちそうさまでした。」と書いてレジで見せると、優しく笑って喜んでくれた韓国料理屋さん、迷子になって道をたどたどしい英語で聞いたら立ち止まって一緒に考えてくれたおばさん、とても優しい人にたくさん出会うことができました。今回韓国に行ってそのような人たちに出会えたこと、知らなかった世界をたくさん知れたこと、本当に良かったなと思います。これからは自分の周りの世界だけでなく、もっと広い世界を見ていきたいと思えるようになりました。

ですが、私は今までこの二つの国は普通の「違う国」だという認識でした。しかし韓国の方から、元は同じ国であり、同じ民族だったということを知り、平和な世界を作ろうとしている今、このような分断という現状に目を背けてはいけなかったと思います。このように韓国は北朝鮮との問題を抱えています。しかしそれだけではなく日本との問題も大きいのです。

日本と韓国は地理的にも近い位置にあり、似ているところが多いと思います。しかし、実際には韓国と日本には違いが多くあり、その中でも韓国の日本に対し

でのイメージは、自分が想像していたものよりもはるかに厳しいものでした。ソウル市内には、旧日本軍がつくった建物を飲み込むような形をしている津波ビルや、日本大使館を見つめる慰安婦像、また日本が韓国統治時代に韓国人に行っていた拷問などを展示している刑務所などがありました。私は他国に対してマイナスな感情をここまで物理的に表している国を見たことがなかったため、驚く気持ちと同時にとてもショックでした。そして日韓問題解決の道のりは長いということを感じました。

このような現状を知った後の韓国の学生との交流は少し緊張しましたが、彼らも私と同じ高校生であり、楽しい時間を過ごすことができました。中には日本語の勉強をしている人や日本に興味がある人もたくさんいました。それはとても嬉しいことでした。歴史を変えることはできないし、日本が韓国に行ってきたこと

は確かに大きなことだと思います。だからこそ今回のツアーで韓国の学生と関わることができたことは、とても大事なことだったと思いますし、お互いを理解し、交流をもつことが日韓問題解決の一步につながるのではないかと思います。同年代同士の交流だったからこそ、より刺激をもらえたのではないかと思います。韓国の学生と関わったことは貴重な体験であり、これから先もこのような交流を続けていきたいと強く思いました。

今回のスタディツアーで学んだことを、ただ「学んだ」ということにとどめないで発信していくことが重要であり、より良い世界をつくるために行動しなくてはいけないと改めて実感することができました。このような貴重な機会に参加することができて本当に良かったです。

西野 星

私は、韓国スタディツアーに初めて参加しましたが、たくさんの出会いに恵まれ、素晴らしい経験をすることができました。以前から韓流にハマっていた私は、このツアーの話や否や即座に「行きたい！」と答えたほどで、出発前からとても楽しみにしていました。しかし、実際に訪れ、自分が知らないことの多さに愕然としたのです。

最も衝撃的だったのは脱北者から聞いた話でした。貧困生活から逃れるための脱北者のほとんどが中国経由で、国境地帯には中国人のブローカーが多数存在し、ビジネスが成り立っているといいます。そして、北に残された家族とも、驚くような手段で繋がるルートを持っているそうです。報道では知り得ない、国と国の背後で複雑に動いているものの存在を垣間みて驚き、このような見えない関係が世界各国間で存在しているのかと想像して、身の毛がよだつ思いをしました。

また、現在の北朝鮮では約 20 万人の子供達が食料不足による栄養失調に直面していると聞きます。そしてこの内、3 割は死に至る深刻な状況だといいます。オドゥサン（烏頭山）統一展望台に立った時、動く人を目視できるほど近い、川をはさんだ対岸の北朝鮮で、私達の日常とはかけ離れた別世界がある事実途方に暮れました。どうして世界はこうなったのだろう？日韓関係はもちろん、韓国と北朝鮮も、互いに憎しみ合っていては何も変わらないし、関係が悪化するだけです。私達に何ができるのか？世界全体に完全な平和が訪れることは難しいかもしれませんが、少しでもそこに近づく努力をする人が増えれば良いと感じました。

一方、日韓関係について特に考えさせられたのは、韓国の学生たちとの交流の場でした。やはり韓国といえば、幼い頃からの反日教育で日本のことが嫌いな人がほとんどだと思っていましたが、そうとは言い切れ

ない時代の流れを感じたのです。今回知り合った同年代の子達に、慰安婦問題や日韓関係についてどう考えているか率直に質問した時のことです。「歴史は変えられないけど、実際に自分が経験したことではないから、一方的に日本を憎んだりはやできない」という言葉が返ってきたのです。想定外の意見が嬉しかったと同時に、彼らの姿から、歴史を学んで自分の意見をもつことの

大切さを強く感じました。もちろん韓国の若者全員がこのような考えを持っているわけではありませんが、互いに歩み寄る一歩として、まずは私達が今回のスタディツアーで生まれた繋がりを深め、新しい日韓関係の構築に繋げていくことにチャレンジしていきたいと思います。そして、私達、民間外交官の輪を世界へ広げていきたいと考えています。

廣瀬 数寿

私は正直、今回のスタディツアーに行く前までは、いわゆる「近くて遠い国」と言われている韓国に対してあまり良い感情をもつことができず、あまり気が進みませんでした。そんな考えだったのですが、ユネスコの青年部の人たちが「韓国は行ってみたら楽しかった！」という声を聞いたので、一生に一回は行ってみようかなという、そんな軽い気分で参加を決めました。

実際に行って初めて感じたことは、私が行く前から想定していた「韓国との壁・隔たり」でした。特にそう感じたのは、最終日に見学した韓国植民地時代に築かれた西大門刑務所を訪れたときです。かつて日本が韓国の活動家に対して行った拷問について、日本人である自分としては、このような行為は決して二度と行ってはならないと思いますが、私としてはその展示の仕方には、あまりにも見学者に対して日本をひどい国であると見させてしまうように感じました。自分たちがやってしまったことをそのまま展示するならともかく、自分の撮られた顔写真がそのまま活動家として映像に映し出されるのは、ショックでした。近くにいた案内の人によれば、ソウル市に住む多くの小学4年生が社会科見学としてここに来ると聞いたので、もし自分が韓国人の小学生だったら日本のことを嫌いになって帰るだろうなあと思いました。日本と韓国の仲が良くなるのはこのままだと難しいなあとその時は正直思っていました。

しかし今回のスタディツアーでは韓国の高校生との交流がありました。彼らと一緒にリースを作ったり、お守りを作る時間は本当に楽しく、国は違っていてもみんな笑ったり、ふざけあったりすることで仲良くできるのだなと感じました。彼らとの話の中でも、日本に行ってみたいなどの話が多く出たのがとても嬉しかったです。特に一緒に焼肉を食べた際に、ある高校生と話したとき、「日本人としゃべるのは少し怖かったけれど、今しゃべってみたら、そうでもなくて安心した。」という話を聞いて、自分自身もとてもほっとしているのに気づきました。国の状況がどうあれ、その国の友人が1人でもできれば、その国との架け橋ができ、より良い友好関係を結ぶことができるのではないかと今は思います。まだ世間的には日本と韓国には大きな隔たりがありますが、このように若い人たちとの小さな友好関係が10年、20年後の互いに尊敬しあえる国づくりにつながるのではないかなと思います。今回のこのスタディツアーでできた縁を今回のみで終わらせずに、友好を深めていきたいと思います。また韓国に行きたいです。

今回このような貴重な機会を設けくださった杉並ユネスコ協会の皆さん、韓国ユネスコ協会連盟のみなさん、そして最後に団長の小林さん、本当にありがとうございました。

西野 月

私は今回、二回目の参加でした。去年の韓国ではパク・クネ大統領やセウォル号沈没事件、慰安婦の賠償金問題などが話題になっていましたが、それから一年経ち、去年と全く情勢が違った中での訪問は同じ韓国でも新鮮で魅力的でした。

今回最も印象に残ったのは、西大門刑務所でした。前回も訪れて、拷問シーンなどの展示内容に強烈に印象づけられたのを覚えています。私は小さい頃から世界平和に興味があり、たびたび広島を訪れています。資料館にはたくさんの提供された資料の展示や実際被爆された方のお話などを聞くことができます。たくさんの「戦争体験を語り継ぎたい」「二度と戦争を繰り返したくない」といった積極的な思いがあるのです。その思いに答えようと、私たち若者は歴史を学ぶのです。毎回、スタディツアーの青年交流で耳にするのは、韓国の若者は祖父母の世代から日本はどれだけひどいことをしたかを教えられているものの、昔と今の分別をつけ、過去の戦争とは別に仲良くなろうとしてくれていることです。彼らは「過去の戦争や歴史や事実を知ることが大切だが、それとは別に私たち若者はお互い仲良くするべきだ」と言います。私は彼らに感動しました。繰り返し教えられてきたことに疑問を持つのは

とても難しいことであると思うからです。さらに私が質問すると、即答してくれたことから、普段から問題意識を持って考えていることが読み取れました。私は今までいろいろな平和活動をしてきましたが、果たして本当に自分自身の「意見」を持っていたのでしょうか。ただ「平和にしよう」と言っているだけではなく、彼らのような具体的な考えを持ち、真の平和に向けた活動をしていかないといけないのだと思いました。

私は、前回の訪問で韓国への関心がより深まり、日頃からニュースに耳を傾けるようになりました。しかし前回の訪問から一年経っていながらも、日韓の関係は改善するどころか、より悪化しています。実際、日本でニュースなどで聞く「韓国」は悪いものばかり。さらに前回の交流会で知り合った高校生たちは、今でも連絡を取り合っているものの、実際連絡をしたり、話をしたりしたからといって世界情勢は変わりません。だからこそ、私たち若者がこうやって知り合い、日本に帰ってからも連絡を取り合うだけではなく、具体的に「自分たちには何ができるのか」を考え、明るい未来につながっていくような活動が、必要だと気づきました。また、この気持ちが時間が経って薄れていく前に、行動に移していきたいと思います。

井口 大夢

僕は、今回が2度目の韓国スタディツアーとなりました。前回の知識をより一層深い理解につなげるという意気込みで臨みました。

今、日本と韓国の友好関係が長く問題視されている中、僕自身は韓国が嫌いや苦手という意識は全くなかったけれど、韓国に行ったときに日本人はどのような目で見られるのであろうかという心配がありました。

しかしその心配も、韓国の人々と接すれば接するほど無くなっていきました。

韓国の歴史を学ぶ機会は今まではあまりなく、観光ではなくスタディツアーという形で参加できたことは、これからの自分にとって大きなものになると思います。特に自分の中にあつた韓国との壁や距離感がなくなったことは、身近な人へ伝えることで周りに影響をもた

らせると思います。それだけでははっきり全員が全員、韓国への壁をなくせるとは思いませんが、自分の経験を活かし周りを引き込むことができれば幸いです。

自分が報告書、発表を担当した西大門刑務所は、韓国スタディツアーの中で一番印象的だと感じました。日本の行っていた残虐なことや、日韓の歴史が顕著に感じられるところでした。とても興味深いものばかりで、きっと普通に生活していたら、こんなところへ来ることもしないし、学ぶこともできなかっただろうと思います。

スタディツアーは本当に無駄がないなというのも実

感しました。行ってつまんなかったと感じることは一度もなかったし、むしろもっと学んでみたいなと思ったり、疑問が増えたりと、良いことだらけでした。

韓国はやはり食べ物も美味しく、辛いものが苦手だった自分も今は、苦手だけど大好きになりました。お店の店員さんとも、日本人と韓国人だからできる話もできたり、韓国にあまり良い印象を持っていない人は、一度実際に訪れて、実際に韓国という国を自分自身で感じるべきだと思いました。

またこういう機会があれば、ぜひとも参加させていたいただきたいです。

西野 裕代

「韓国から学ぶこと」

いつも韓国は、様々な意味で私に衝撃を与えてくれます。今回のスタディツアーを通して、いくつか刺激的なことがありましたが、特筆したいのは一点。日韓青年の交流の場を用意してくれた、ユースセンターの青少年育成に注ぐエネルギーが物凄いことでした。毎年、韓国の大学受験日に国をあげて受験生をバックアップしている様子は、日本でも繰り返し報道され周知されているところですが、根底にあるのは若者を育てようとする強い意識と、そこを優先していることに他なりません。

一昨年、韓国で出会った青年は、「昔ながらの風習を断ち切るために、今、私達が変わっていかなければならない」と言って、政権交代を求めるデモに若者が参加している理由を教えてくださいました。今回、出会った青年は、「歴史は学んだけれど、その時代に自分が居たわけではないから、善し悪しの判断はできない。自分達は友好関係を築いていきたい。」と言って、親の反対を

押し切って日本の大学への進学を希望していました。彼らの先を見据えた考えや行動力は、見習うべきところではないでしょうか。

総務省の国際比較調査「今を生きる若者の意識」によると、「自国のために役立つことをしたい」と感じている日本人の割合は、7カ国(※)中、最も高いそうです。しかし、「社会現象が変えられるかもしれない」と思う割合は、他国から大きく引き離され、最下位となっています。では、どうしたら若者の意識を変えていけるのか？私達ができることは、今回のスタディツアーのような考える機会を与え続けることだと思います。ひと昔前の子供達と違って、今の子供達は本当に忙しい。一般的な学生生活を送っている我が子やその周りの子供達を見ていると、学校の課題、部活動、塾通い、習い事…それをルーティンでこなしていくだけで精一杯の彼らは、世の中に目を向けて考える時間の余裕は全くないような状況です。意識しなければ考えなくて済んでしまうような環境を与え続けることへの疑問も生まれます。この生活を変えることは難しいですが、

考えるきっかけを与えることはできます。

今回のような異文化交流の体験によって、参加者は自分とは関係のなかった問題がぐっと身近なものとなり、今まで聞き流していたニュースにも興味が湧いて耳を傾けているはずです。幸い、大人が思っているような国境の垣根は、デジタルネイティブである現代の若者にはありません。少なくとも、機会さえあれば、そこから新しい展開を生み出していく力を彼らは持っています。但し、せっかくの機会の後も、SNSで繋がっているだけの関係では結果的に何も生まれません。若者に芽生えた意識を継続して育てていくような機会作りには大人は心を配り、投資していかなければならないのではないのでしょうか。

板倉 徳枝

「2017年 最後の韓国スタディツアー」

10回目となる今回の韓国スタディツアーは初めて12人という大勢の参加者を得て、とても刺激的で経験豊かな最終ツアーとなった。出発ぎりぎりまでスケジュールが定まらず、小林団長、西野理事とともにイライラする場面も多々あったが、4日間の滞在は結果として素晴らしいものだった。

なんとか予約を入れることができた脱北者とのツアーは、予想以上に貴重な経験となった。脱北者との面会で北朝鮮の人々の生活の実態を学べた。一番驚いたのは多くの中国人ブローカーが北朝鮮内で暗躍している事実だ。もっと驚かされたのは、脱北者の女性はブローカーと結婚していた。そして北朝鮮にいる家族にブローカーを通して送金をしている事実だ。

韓国ユ協から紹介された、パンギョ市の青少年センターでのおもてなしにもまた驚かされた。ソウル市の

今回のツアー参加者が恵まれていたことは、ほんの4日間の中で、韓国の歴史的な部分と、全く新しい方向へ進んでいる部分の両極端を体験できたことでした。この経験から学んだことを次のアクションに繋げて欲しいと願っています。日本は間もなく2025年問題といわれる「超高齢多死社会」が訪れます。国民の3人に1人が高齢者となる世界的にも類をみない状況下で、どのような若者を育てていくべきなのか？一刻の猶予もならないという思いが強まるばかりです。

(※) 調査対象は、日本、韓国、アメリカ、英国、ドイツ、フランス、スウェーデン（計7カ国）、満13歳から満29歳の男女。

特別区である城南区は、現在IT企業を誘致し、韓国のシリコンバレーと呼ばれている。街並みはとても新しく美しい。道路にはレクサスをはじめ高級外車が多く駐車されていた。そして、青少年プログラムへ。とても大きな力を注いでいると感じた。その一環として私達は素晴らしいおもてなしを受けることになった。感謝してもしきれないほどのもてなしだった。

パンギョ市での素晴らしい青年交流の一方で、毎年訪れる西大門刑務所歴史館では何人かの参加者は気分が悪くなる事態になった。私はここを8回訪れているが、毎年新しい残酷な部分を発見する。ここは日本への憎しみを製造する工場のようなのだ。

ホテルのテレビで2015年に結ばれた日韓合意を韓国側が認めないと発表したことを知った。10年間、日本と韓国の未来が明るいものになればという願いを持って若者たちと韓国を訪れてきたが、私はソウルで、“No hope for our future relation to my great regret”とつ

ぶやかざるをえなかった。

今回1つだけ思い出深いことがあった。同じバスへ乗ってくださった脱北者お二人にお願いして、車窓か

ら北朝鮮を眺めながら「イムジン河」を一緒に歌ってもらった。その時だけは、イムジン河のむこうに北朝鮮がとても美しく見えた。

小林 穂菜美

「はじめてがあった8回目のスタディツアー」

北朝鮮建国 80 周年、平昌オリンピック開催の年である 2018 年になる直前に、今回もスタディツアーで韓国を訪れました。途中参加も含めて私自身、韓国スタディツアーは8回目の参加でした。何回も行くとはあまり驚くということはなく、前回との変化を見つけたり、他の参加者の様子から自分にはない考え方を学ぶということが多かったです。しかし、今回は私にとってもはじめてがたくさん4日間でした。

たくさんのはじめての中でも大きく印象に残ったことが2つあります。

1つ目のはじめては、脱北者の方との出会いでした。いつも DMZ へ行くツアーには参加しているのですが、脱北者の方が一緒なのははじめてでした。「脱北者」という言葉で感じていた壁が、実際にお会いして壁が無くなる感覚もありました。報道でしか知らなかった北朝鮮の生の声には驚きの連続でした。また、脱北前後の韓日米の印象についての質問のとき、洗脳教育で日本へは敵というイメージであったものの、中国製の新品の電化製品より日本の中古の方が性能がよく好きだったという話を聞いて、日本の技術に感謝しました。

もう1つのはじめては、城南市盆唐板橋ユースセンターの方々との出会いです。数年前に杉並の中学校を訪問したことが今回の交流に繋がったと聞き、とても暖かい気持ちになりました。例年、韓国青年との交流は交流会当日の午前中にディスカッションをし、昼食

後、都合のよい参加者だけ午後も一緒に過ごしてもらえという形でした。しかし、今回はツアー初日の夕食から最終日の空港へのバスまでお世話になり、センターのスタッフの方々が当日も魅力的なプログラムを用意してくださいました。プログラムで出会った高校生たちは日本語を積極的に勉強している人たちであり、過去の日本との関係に関しても、今の自分たちとは区切って考えているようでした。例年ディスカッションの中で互いの文化の違いを学ぶことが多く、今回はディスカッションではなかったため、ただ一緒に体験をし終わるのではと思ったのですが、最終的にそのような不安を感じる必要はありませんでした。体験の作業の中で幅広い話ができて、素敵な友達が増えたと感じました。

10 回目のツアーが終わった後に、10 という区切りも良いし、いつもツアーを企画している岩野さんが行けないということで、もう 2017 年は行かなくてもよいのではという声がありました。しかし、今回過ごした4日間を振り返ると、実施することができてよかったなと感じることばかりでした。準備段階では考えられなかった今の状況で韓国に行くことができたということは、貴重な機会であったと思います。ツアー前後で様々なサポートをしてくれた岩野さん、ツアーで大変お世話になった韓国ユネスコ協会連盟・城南市盆唐板橋ユースセンターの皆さんには感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

今回感じた人と人との素敵な関係が、国と国の間でも少しずつ動き出すことがある未来でありますように。

あとがき

本報告書を終えるにあたり、11回目の韓国スタディツアーが多く参加者、そして多くの協力者の方々に支えられ、成功裏に終わられたことを喜びたいと思います。とりわけ、素晴らしい交流プログラムを用意していただいたブンダン・パンギョ・ユースセンターの方々には、ツアーの初日から最終日まで温かいおもてなしをしてくださり、心から感謝を申し上げたいと思います。また、本ツアーの1回目から10年以上にわたり交流プログラムの仲介をしてくださっている、韓国ユネスコ協会連盟の方々にも感謝を申し上げます。

本ツアーは3年間、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「青少年ユネスコ活動助成」を受けて実施してきました。この場を借りて、同連盟の方々にもお礼を申し上げたいと思います。

日韓両国が互いに「近くて遠い」関係から「近くて近い」関係になるまで、もう少し時間がかかるものと思われませんが、青年同士の交流を見ていると、それが不可能ではないと確信できます。本ツアーを実施することで、1ミリでも日韓友好に近づきたい。その思いを両国の多くの人々と共有できればと思っています。(岩野 智)



第11回韓国スタディツアー報告書 2017

2018年3月10日

杉並ユネスコ協会 (<http://suginami-unesco.org/>)